

# 施策の評価シート(令和6年度分)

1 計画における位置付け				
政策体系	総目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり	
	基本政策	08	持続可能な都市基盤の整備	管理コード 040822
	施策	22	生活排水対策等の推進	本冊ページ 71
	関連個別計画	津市下水道事業基本計画、津市雨水管理総合計画、下水道ストックマネジメント基本計画		
	担当部局	農林水産部、建設部、上下水道事業局、上下水道管理局		
	施策の内容(番号)	070	～	072

2 「施策の内容」の総合評価と今後の方向性				
番号	施策の内容	「施策の内容」の総合評価		担当課
		選択区分	今後の方向性 選択区分	
070	下水道事業については、管理・経営の方針を定め、効率的な下水道整備を進めるとともに、施設の長寿命化に向けて、計画的な維持管理を推進します。	B	①	下水道工務課/下水道施設課/経営企画課
071	供用開始地域の未接続世帯への公共下水道接続並びに汲み取り槽及び単独浄化槽からの合併浄化槽への転換について、指導、啓発活動を強化し、水洗化率の向上に取り組めます。	B	①	下水道工務課/営業課
072	浸水被害軽減のため、排水路や公共下水道の整備と既存施設の適切な維持管理など、雨水排水対策を進めるとともに、浸水被害が著しい地域においては、公共下水道事業だけでなく河川事業や農地の湛水防除事業なども含めた総合的な浸水対策を進めます。	A	①	河川排水推進室/南北工務事務所/下水道工務課/下水道施設課

※「施策の内容」の総合評価…A=80点以上、B=60点以上80点未満、C=40点以上60点未満、D=20点以上40点未満、E=20点未満  
 ※今後の方向性…①=効果的な事業構成であるため、方向性を維持、②=概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある、③=あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい、④=事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要

3 「施策」の総合評価			
「施策の内容」の総合評価を根拠とした「施策」の総合評価	区分	選択区分	総評(施策の進捗状況や効果等を端的に記載)
	A 80点以上 B 60点以上80点未満 C 40点以上60点未満 D 20点以上40点未満 E 20点未満	A	A

※総合評価は、「施策の内容」の総合評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	B	A	A	B	A			

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

# 施策の内容評価シート(令和6年度分)

1 計画における位置付け				
政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり
		基本政策	08	持続可能な都市基盤の整備
		施策	22	生活排水対策等の推進
	関連個別計画	津市下水道事業基本計画(平成30年度～令和9年度)、津市雨水管理総合計画(令和元年度～令和10年度)、下水道ストックマネジメント基本計画(令和5年度～令和9年度)		
	担当部局	上下水道事業局、上下水道管理局		
	施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果	070	下水道事業については、管理・経営の方針を定め、効率的な下水道整備を進めるとともに、施設の長寿命化に向けて、計画的な維持管理を推進します。	

## 2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)	
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	△ 実施評価		
	担当課		何		◇ 事業評価の主な視点	△ 事業評価		
					決算額 (千円)	今後の方向性		
070-1	汚水管渠維持管理事業	不明水対策等管更生工事	効	下水道管等に流入する不明水によって起こる汚水の排水不良を防ぐことができる	◆	不明水対策計画に基づき工事を実施 5件	○	計画していた5件のうち4件の工事が完了したが、1件が繰り越し工事となったため実施評価を「○」とした。また、大雨時に不明水が確認されたため対策を行っているが、事業完了前につき効果の発現にいたっていないことから事業評価は「△」とした。 今後も不明水減少に向け、工事を実施する必要があることから、今後の方向性を「現状維持」とした。
	誰		公共下水道使用者	◇	マンホールにおける不明水の確認	△		
担当課	下水道工務課	何	安定した公共下水道の使用	154,114 (千円)	現状維持			
070-2	汚水管渠建設事業	汚水幹線等築造工事等	効	汲取り便所の水洗化及び家庭用雑排水等の公共下水道への接続につながる	◆	津市下水道事業基本計画に基づき下水道整備を実施	○	令和6年度末における下水道処理人口普及率は56.9%であり、更に未普及対策を進める必要があるが概ね計画どおりの進捗が図られたことから、事業評価を「○」とした。特に平成30年4月に供用開始となった志登茂川処理区において、市街化区域の未整備箇所が多いことから、志登茂川処理区にて重点的に事業推進を図る必要がある。
	誰		公共下水道使用者、市内外の人々	◇	処理区域面積	○		
担当課	下水道工務課	何	生活環境及び公衆衛生の改善と公共用水域の水質保全	2,065,613 (千円)	現状維持			
070-3	雨水管渠建設事業	雨水幹線築造工事等	効	降雨時など、市街地における内水を速やかに排除できる	◆	雨水管理総合計画に基づき雨水幹線築造工事を実施	◎	計画区域の整備を進められており、未完了の継続工事は効果は未だだが、計画通りであり「◎」とした。
	誰		市内外の人々	◇	整備面積	◎		
担当課	下水道工務課	何	内水氾濫の被害から人命・資産等が守られる	1,476,183 (千円)	現状維持			

# 施策の内容評価シート(令和6年度分)

070-4	建設改良事業	老朽管更新工事	効	老朽化による管路の損壊を防ぐことにつながる	◆	津市下水道ストックマネジメント計画に基づき設計業務委託を実施	◎	計画していた設計業務委託が完了したため実施評価を「◎」とした。また、工事は実施していないことから効果の発現にいたっていないことから事業評価は「△」とした。 今後も老朽化対策に向け、工事を実施する必要があることから、今後の方向性を「現状維持」とした。
	下水道工務課		誰	公共下水道使用者	◇	計画に基づく工事の実施	△	
			何	安定した公共下水道の使用	25,976 (千円)	現状維持		
070-5	汚水処理事業	浄化施設整備工事	効	安心安全なまちづくりを推進できる	◆	津市下水道事業基本計画に基づき、施設内設備の改築工事、修繕を実施	○	津市下水道事業基本計画に基づき、施設内設備の改築工事、修繕を2件実施した。引き続き改築工事、修繕を実施していく。
	下水道施設課		誰	使用者	◇	工事・修繕の実施件数	○	
			何	安心安全な生活の維持	19,745 (千円)	現状維持		
070-6	農業集落排水処理施設維持管理事業	農業集落排水処理施設等の機能強化工事	効	持続的な施設機能の確保とライフサイクルコストの低減につながる	◆	津市下水道事業基本計画に基づき、施設の機能強化計画策定を実施	○	機能強化工事に向けた条件の整理と設置年度、施設規模を勘案し対象となる施設の優先順位を決定したうえで計画通り1件の計画策定を実施した。この計画に基づき来年度は3件の計画を進めて行く。
	下水道工務課/下水道施設課		誰	使用者	◇	計画策定数	○	
			何	安定した公共下水道の使用	5,060 (千円)	拡充・充実		
070-7	流域下水道建設負担事業	中勢沿岸流域下水道の建設費を負担	効	中勢沿岸流域下水道の整備	◆	中勢沿岸流域下水道の事業計画に基づく整備	◎	県事業の進捗を確認し、覚書に基づき建設負担金を負担したことから「◎」とした。今後においても県とともに必要な整備を行います。
	経営企画課		誰	流域関連公共下水道区域に居住する住民	◇	流域下水道整備の進捗状況	◎	
			何	生活環境の改善や河川等公共用水域の水質保全を図る	395,092 (千円)	現状維持		
070-8	共同汚水処理施設建設事業	不明水対策工事	効	下水道管等に流入する不明水によっておこる汚水の排水不良を防ぐ	◆	不明水対策計画に基づき工事を実施	◎	計画していた工事が完了したため実施評価を「◎」とした。また、大雨時に不明水が確認されたため対策を行っているが、事業完了前につき効果の発現にいたっていないことから事業評価は「△」とした。 今後も不明水減少に向け、工事を実施する必要があることから、今後の方向性を「現状維持」とした。
	下水道工務課		誰	公共下水道使用者	◇	マンホールにおける不明水の確認	△	
			何	安定した公共下水道の使用	9,983 (千円)	現状維持		

# 施策の内容評価シート(令和6年度分)

070-9	共同汚水処理施設維持管理事業	帰属している共同汚水処理施設の維持管理	効	持続的な施設機能の確保とライフサイクルコストの低減につながる	◆	下水道事業基本計画に基づき、共同汚水処理施設の維持管理を実施	○	適切な維持管理により排水基準を守ることができ、不適合件数はゼロであった。共同汚水処理施設は今後も増加する見通しのため、今後の方向性は「拡充・充実」とした。
	誰		使用者	◇	法定点検での水質不適合件数	○		
	下水道施設課		何	安定した公共下水道の使用ができる	248,802 (千円)	拡充・充実		
070-10			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
070-11			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			
070-12			効		◆			
			誰		◇			
			何		(千円)			

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さなる) 拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	<b>B</b>
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	<b>①</b>
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>B</b>			
今後の方向性	<b>①</b>	<b>①</b>	<b>①</b>	<b>①</b>	<b>①</b>	<b>①</b>	<b>①</b>			

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。



# 施策の内容評価シート(令和6年度分)

## 1 計画における位置付け

政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり		
		基本政策	08	持続可能な都市基盤の整備	管理コード	040822071
		施策	22	生活排水対策等の推進	本冊ページ	71
	関連個別計画	津市下水道事業基本計画(平成30年度～令和9年度)				
担当部局		上下水道事業局、上下水道管理局				
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		071	供用開始地域の未接続世帯への公共下水道接続並びに汲み取り槽及び単独浄化槽からの合併浄化槽への転換について、指導、啓発活動を強化し、水洗化率の向上に取り組めます。			

## 2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	△ 実施評価	
	担当課		何		◇ 事業評価の主な視点	○ 事業評価	
					決算額 (千円)	今後の方向性	
071-1	市営浄化槽事業	下水道計画区域及び農業集落排水処理施設などの集合処理区域を除いた区域における浄化槽の設置	効	悪臭及び公共用水域の改善につながる	◆ 市営浄化槽設置件数115基、帰属件数150基	△	市営浄化槽の設置計画115基のうち設置74基及び帰属計画150基のうち47基の帰属であり、計画を下回ったため「△」とした。今後は、申請件数は依然と低いことから、引き続き従来の手法を行うとともに新たにHPを活用した啓発を行っていくため、今後の方向性は「現状維持」とした。
	誰		市営浄化槽使用者及び近隣住民等	◇ 市営浄化槽設置・帰属件数	△		
	下水道工務課		何	生活環境の保全及び公衆衛生の向上	35,874 (千円)	現状維持	
071-2	公共下水道事業	公共下水道供用開始地域における未接続世帯への公共下水道接続についての啓発	効	公共下水道の水洗化率の向上につながる	◆ 未接続世帯への普及啓発訪問件数 600件/年	△	計画していた600件のうち啓発訪問件数が349件となったことから「△」とした。下水道接続数については昨年より減少しているが啓発訪問箇所の接続もあることから事業評価は「○」とした。今後も公共用水域の水質保全のため未接続世帯への普及啓発は重要であることから方向性は、「拡充・充実」とした。
	誰		公共下水道供用開始地域の住宅所有者等	◇ 接続検査件数	○		
	下水道工務課		何	市民の生活環境の保全及び公衆衛生の向上並びに公共用水域の水質保全につながる	0 (千円)	拡充・充実	
071-3	普及指導事業	公共下水道供用開始地域の未接続世帯に対する補助	効	水洗化率の向上に繋がる	◆ 補助金交付23件	○	23件の計画に対し、22件の実績で、約96%の執行となり、概ね目標数値を達成することができた。利用者の減少はみられるものの、水洗便所改造資金融資あっせん和利子補給により引き続き水洗化率の向上に取り組む。
	誰		市内の人々	◇ 水洗化率の向上	○		
	営業課		何	助成金を活用し、公共下水道へ接続することができる	10 (千円)	現状維持	

# 施策の内容評価シート(令和6年度分)

071-4			効	◆		
			誰	◇		
			何	(千円)		
071-5			効	◆		
			誰	◇		
			何	(千円)		
071-6			効	◆		
			誰	◇		
			何	(千円)		
071-7			効	◆		
			誰	◇		
			何	(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	<b>B</b>
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	<b>①</b>
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>B</b>	<b>C</b>	<b>B</b>			
今後の方向性	<b>①</b>	<b>①</b>	<b>①</b>	<b>①</b>	<b>①</b>	<b>①</b>	<b>①</b>			

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

# 施策の内容評価シート(令和6年度分)

1 計画における位置付け						
政策体系	総合計画	目標	04	心やすらぐ住みよいまちづくり		
		基本政策	08	持続可能な都市基盤の整備	管理コード	040822072
		施策	22	生活排水対策等の推進	本冊ページ	71
		関連個別計画	津市雨水管理総合計画(令和元年度～令和10年度)			
担当部局		農林水産部、建設部、上下水道事業局				
施策の内容 (第2次基本計画) ※目指す方向性・各事業の実施により期待される効果		072	浸水被害軽減のため、排水路や公共下水道の整備と既存施設の適切な維持管理など、雨水排水対策を進めるとともに、浸水被害が著しい地域においては、公共下水道事業だけでなく河川事業や農地の湛水防除事業なども含めた総合的な浸水対策を進めます。			

## 2 「施策の内容」に係る主な事業の評価(事務事業評価)

番号	事業名	事業の内容	事業の目的		事業の評価		事業の振り返りとこれから (実施評価、事業評価、今後の方向性を選んだ理由)
			効	誰	◆ 当初の事業実施計画	◇ 事業評価の主な視点	
	担当課		何		決算額 (千円)	今後の方向性	
072-1	緊急浚渫対策事業	緊急浚渫対策事業債を活用した、浸水対策のための河川の浚渫工事	効	浸水対策の促進	◆ 6河川の浚渫	◎	6河川の浚渫を行ったことで浸水対策が図られ、安心・安全な暮らしを確保することができたため「◎」とした。今後も継続して実施していく。
	誰		河川流域の住民	◇ 6河川の浚渫実施数	◎		
	何		安心・安全な暮らしを送る	72,047 (千円)	現状維持		
072-2	雨水計画事業	浸水被害軽減のための調査測量、検討業務委託	効	浸水対策の促進	◆ 3河川の設計	◎	河川管理施設の整備に伴う3河川の設計を行ったことで浸水対策が図られ、安心・安全な暮らしを確保することができたため「◎」とした。今後も継続して実施していく。
	誰		調査箇所周辺地区の住民	◇ 調査・測量実施数	◎		
	何		安心・安全な暮らしを送る	2,128 (千円)	現状維持		
072-3	雨水対策事業(農業水利施設改修)	緊急自然災害防止対策事業債を活用した、浸水対策のための農業水利施設等の改修工事	効	浸水対策の促進	◆ 2調整池の工事	◎	農業水利施設等へ排水調整機能を持った設備を設置する調整池転用工事を2調整池にて行ったことで浸水対策が図られ、安心・安全な暮らしを確保することができたため「◎」とした。今後も継続して実施していく。
	誰		ため池下流の地域の住民	◇ 調整機能の付加状況	◎		
	何		安心・安全な暮らしを送る	50,270 (千円)	現状維持		
072-4	河川維持事業	準用河川等のしゅんせつ、除草、修繕等の維持管理	効	適正な河川施設の維持管理を行う	◆ 施設の適正な維持管理	◎	河川の土砂しゅんせつ等を行うことにより、降雨時における河川の排水能力を高め、河川の氾濫等による浸水被害の低減を図ることができた。引き続き、河川の維持保全等に努め、緊急性の高い箇所より順次進めていく。
	誰		市内外の人々	◇ 維持管理の進捗率	◎		
	何		地域特性に応じた河川施設の維持管理を行う	97,539 (千円)	現状維持		

# 施策の内容評価シート(令和6年度分)

072-5	雨水管渠建設事業	雨水幹線築造工事等	効	降雨時など、市街地における内水を速やかに排除できる	◆ 雨水管理総合計画に基づき雨水幹線築造工事を実施	◎	計画区域の整備を進められており、未完了の継続工事は効果は未だだが、計画通りであり「◎」とした。
	誰		市内外の人々	◇ 整備面積	◎		
下水道工務課	何	内水氾濫の被害から人命・資産等が守られる	1,476,183 (千円)	現状維持			
072-6	雨水対策事業	排水施設整備工事	効	安心安全なまちづくりの推進につながる	◆ 津市下水道事業基本計画に基づき、施設内設備の改築工事、修繕を実施	○	津市下水道事業基本計画に基づき、施設内設備の改築工事、修繕を7件実施した。引き続き改築工事、修繕を実施していく。
	誰		市民	◇ 工事・修繕の実施件数	○		
下水道施設課	何	浸水対策	97,925 (千円)	現状維持			
072-7	雨水ポンプ場建設事業	桜橋ポンプ場ポンプ設備(1号ポンプ等)改築工事等	効	安心安全なまちづくりの推進につながる	◆ 津市下水道事業基本計画に基づき、施設内設備の改築工事を実施	○	施設内設備の改築工事を1件、3年計画の1年目で事業実施中であり、効果の発現に至っていないことから事業評価を「△」とした。引き続き改築工事を実施していく。
	誰		市民	◇ 工事の実施件数	△		
下水道施設課	何	安心安全な生活の維持	2,456 (千円)	現状維持			
072-8			効		◆		
			誰		◇		
			何		(千円)		

※実施評価(計画どおり実施したか)…◎=計画を達成(100%以上) ○=概ね計画どおり(80%以上~100%未満) △=計画を下回った(50%以上~80%未満) ×=計画を大きく下回った(50%未満)

※事業評価(効果があったか)…◎=大いに効果が認められる ○=ある程度の効果が認められる △=あまり効果がなかった/事業完了前につき効果の発現に至っていない ×=効果を測定できない

※今後の方向性…(さらなる)拡充・充実、現状維持、見直し、廃止、完了

3 「施策の内容」の総合評価		
	区分	選択区分
実施評価・事業評価を根拠とした「施策の内容」の総合評価	A 80点以上	A
	B 60点以上80点未満	
	C 40点以上60点未満	
	D 20点以上40点未満	
	E 20点未満	

4 今後の方向性		
	区分	選択区分
今後の施策の内容の方向性	① 効果的な事業構成であるため、方向性を維持	①
	② 概ね効果的な事業構成であるが、一部見直し等の余地がある	
	③ あまり効果的な事業構成ではないため、見直しの余地が大きい	
	④ 事業構成に問題があるため、抜本的な見直し等が必要	

※総合評価は、主な事業の実施状況(実施評価)、事業対象者への効果(事業評価)の評価をポイント化したものをベースに自動的に判定しています。

※今後の方向性は、施策の内容の総合評価および主な事業の今後の方向性をベースに自動的に判定しています。

計画期間における達成状況										
年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
総合評価	B	B	B	A	A	B	A			
今後の方向性	①	①	①	①	①	①	①			

※計画期間である平成30年度(2018年度)から令和9年度(2027年度)の本施策の内容に関する推移を示します。

